

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	株式会社宇式通信システム
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>当社は、大正12年の創業以来、主に静岡県下において、大手企業だけでなく中小企業のお客様を対象に、ビジネスホンやPBXなどのネットワーク関連のIT機器の導入・構築・運用サポートをお手伝いさせて頂いてきました。地域に密着して事業展開し、様々な規模の企業のお客様の声が直接的に耳に入ってきている立場から、今回の「光の道構想」について意見を申し述べさせて頂きます。</p> <p>今回の「光の道構想」は、2015年までに、既存のメタル回線の100%を光ファイバ回線に置き換えることを前提に、その実現のため、どのような政策を講じていくかという点に焦点が当てられています。ところが、そもそも僅か4年という短い期間で、全てのお客様の全回線を光ファイバ回線に置き換えることは、本当に必要なことなのでしょうか。</p> <p>メタル回線を光ファイバ回線に置き換えるといっても、単にNTTなどの通信事業者の回線設備を更新すれば済む話ではありません。</p> <p>例えば、企業のお客様がビジネスホンを利用されている場合、ビジネスホンを光ファイバ回線に対応可能とするためのユニットを新たに搭載する必要がありますし、そのためには相当規模の工事が必要です。ご利用頂いている機種によっては、ユニットを新たに搭載するだけでは対応できず、ビジネスホンのシステム自体を全面更改しなければならない場合もあるのです。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>当社としても、ブロードバンドの普及拡大を図るという基本的な方向性は賛成ですが、僅か4年で、光ファイバ回線に対応するためにビジネスホンの更改等を強いることになるような政策、即ち、お客様の限られたIT投資の枠を特定分野に振り向けるような強いるような政策に賛成することはできません。</p> <p>本当に光ファイバ回線化を促したいのであれば、まずは、ビジネスホンの更改等に要する費用の助成等、お客様の判断を後押しするようなインセンティブを設けて頂くことが先決ではないかと考えます。</p>